

第1号 稲作管理特報

平成29年4月7日
朝 日 町
黒東地域農業技術者協議会

みな穂米が消費者から選ばれ続けるには、一等米比率95%以上を堅持することが大切です。

5月15日を中心とする田植えと土づくりや深耕などによる「根づくり」、健苗の育成と70株植えによる「穂数型稲への誘導」など、高温対策の徹底と、気象変動に負けない米づくりに努めましょう。

品質の高い、おいしい米づくりの重点ポイント

・継続的な土づくり

堆きゅう肥や発酵ケイフンなどの有機物の散布、ケイ酸質や含鉄資材の施用

・初期茎数の確保と適正な籾数への誘導

適正な基肥量の施用、栽植株数70株/坪の実施、浅水管理や中干しの徹底

・病虫害防除の徹底

斑点米カメムシ類の防除、畦畔や雑草地の草刈りの徹底

・適期刈取りと胴割米の発生防止

籾黄化率85~90%での刈取り、収穫5~7日前までの間断かん水の実施

継続的な土づくり ~秋に施用できなかった場合は、春に必ず施用しましょう~

土づくり資材の施用

・ケイ酸質を含む資材を継続的に施用しましょう。

「シリカロマン」	120kg/10a	または	「珪酸石灰」	160kg/10a
「こめこめ大地」	120kg/10a		「苦土重焼燐」	20kg/10a

※苦土重焼燐:山手(洪積)は 40kg/10a施用

・管内の土壌調査の結果、平坦部(砂壤土)のほ場で鉄分が不足しています。3年に1度を目安に、鉄分を補給しましょう。

「アサヒニューテツ」	160kg/10a
------------	-----------

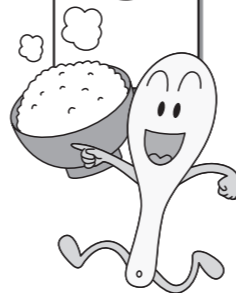
有機物の散布

・腐植含量や地力を高めるため、牛ふん堆肥(1t/10a)または、発酵ケイフン(75kg/10a)を散布しましょう。

深耕

・作土深20cmを目標に、深耕に努めましょう。

みな穂の米づくりの始まりは、まず「土づくり」!



健苗育成 ~5月15日を中心とした田植えにあわせた育苗計画で、老化苗の発生を防止!~

【育苗~田植えの作業別時期の目安】

浸種開始	催芽	播種	ハウス搬出	田植	育苗日数
4月10日	4月18日	4月20日	4月23日	5月10日	20日
4月16日	4月23日	4月25日	4月28日	5月15日	20日
4月22日	4月28日	4月30日	5月3日	5月20日	20日

浸種

※薬剤の効果を高めるため、浸種は次のことに注意しましょう。

- ・浸種始めは2~3日程度水を交換しないでください。その後の水の交換は2日に1回とし、流水中での浸種や頻繁な水の交換は、薬剤の効果を低下させるので注意しましょう。
- ・浸種時の水温は10~15℃を保ちましょう。(特に浸種初日は、**12℃以上を確保してください**)
- ・浸種期間は、水温12℃で10日程度が目安です。
- ・プラスチック水槽は水温の温度変化が大きいため、直射日光が当たる場所に置くのは避けましょう。

催芽

- ・育苗器を使用する場合は、**30℃を厳守する**。(風呂湯を使用する場合は、**最初の温度は37℃**に調整します)
- ・芽の長さは、ハトムネ~2mm程度が目安です。(伸び過ぎないように注意!)

播種

- ・1箱当たりの播種量は、乾籾で120g(催芽籾で150g)程度です。

出芽

- ・育苗器の温度は、**30℃を厳守する**。
30℃を超えると、カビや苗立枯病が発生する原因となります。
- ・育苗器のサーモの作動状況を事前に確認しましょう。

ハウスの温度管理

- 緑化期(搬出後2~3日)
 - ・ハウス搬出直後は、土が落ちつくまで水をしっかりかけましょう。
 - ・被覆資材は、搬出2~3日後に外しましょう。

※ハウス内の温度は25℃を超えないよう、緑化期間中でも換気しましょう。
ただし、夜温が10℃以下になると予想されるときは、ハウスを早めに閉める。